



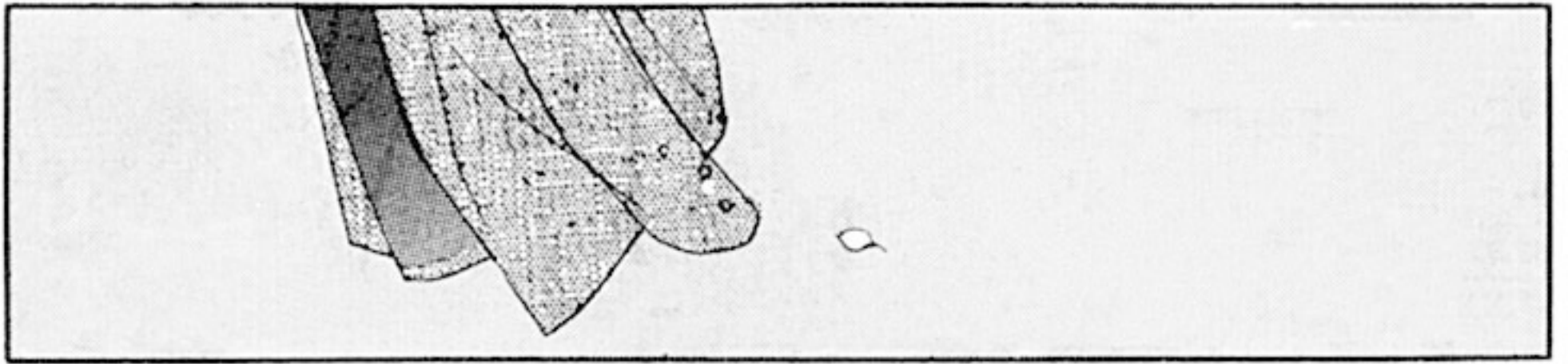
乱

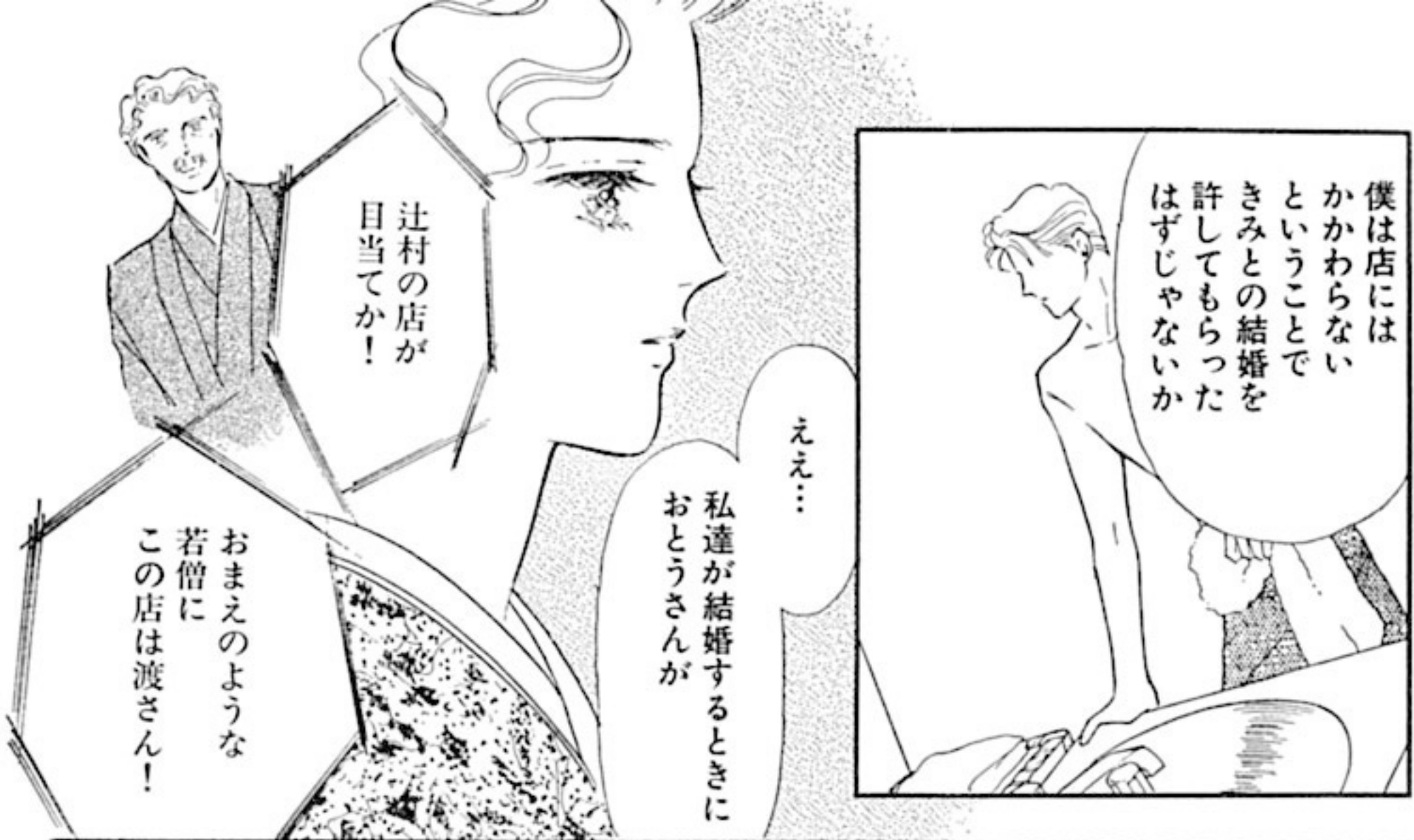
舞

星合

操

HOSHITAI MISSAO





僕は店には
かかわらない
ということ
きみとの結婚を
許してもらった
はずじゃないか

ええ…

私達が結婚するときに
おとうさんが

辻村の店が
目当てか!

おまえのような
若僧に
この店は渡さん!



僕は
そんなものために
きみと結婚
したんじゃない



2年前に
母が亡くなってから
父も気が弱く
なってきたのよ

私はやはり女だし…
私1人にこの店を
まかせるのは
心配なんだと思うの



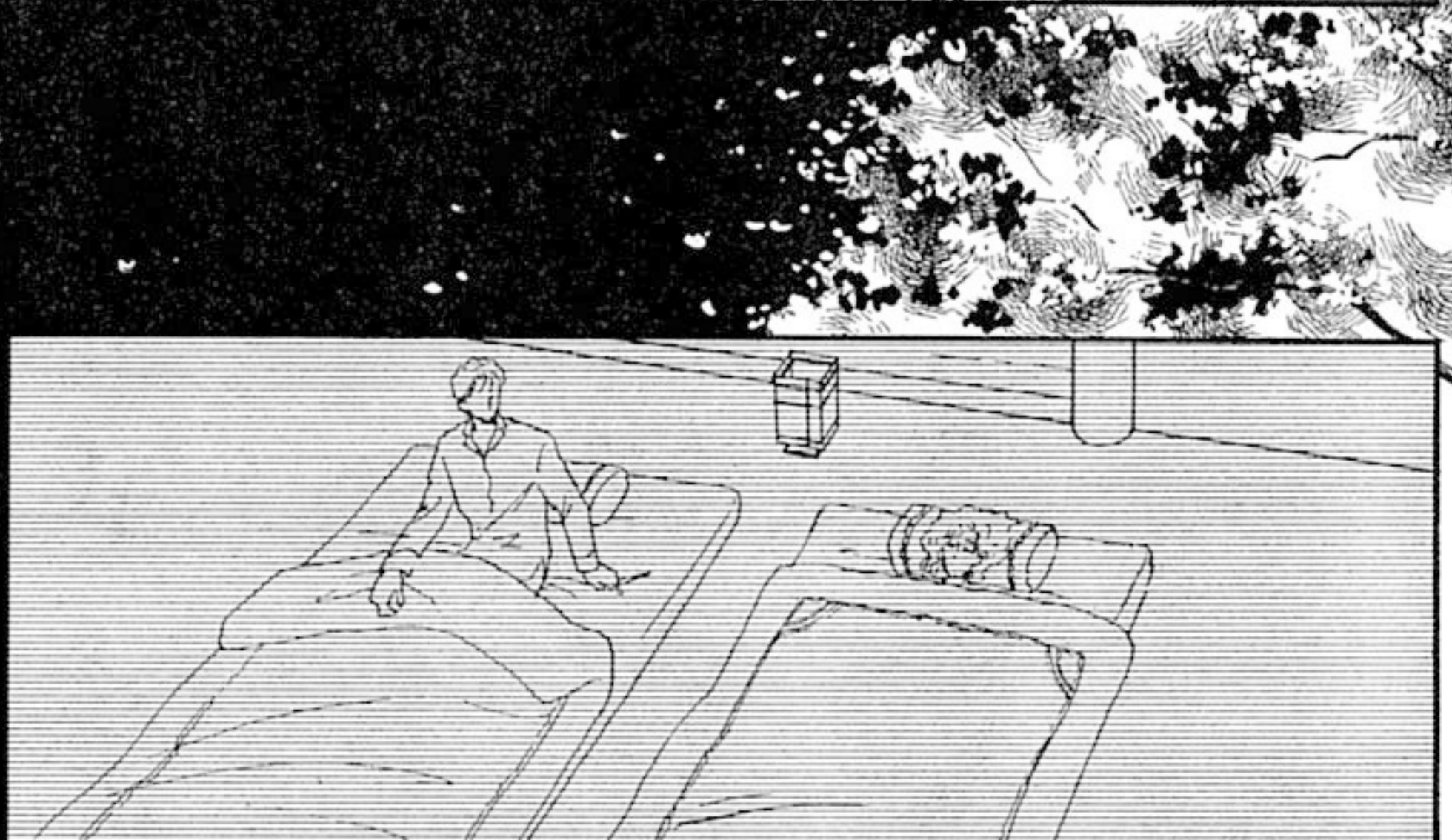
でも

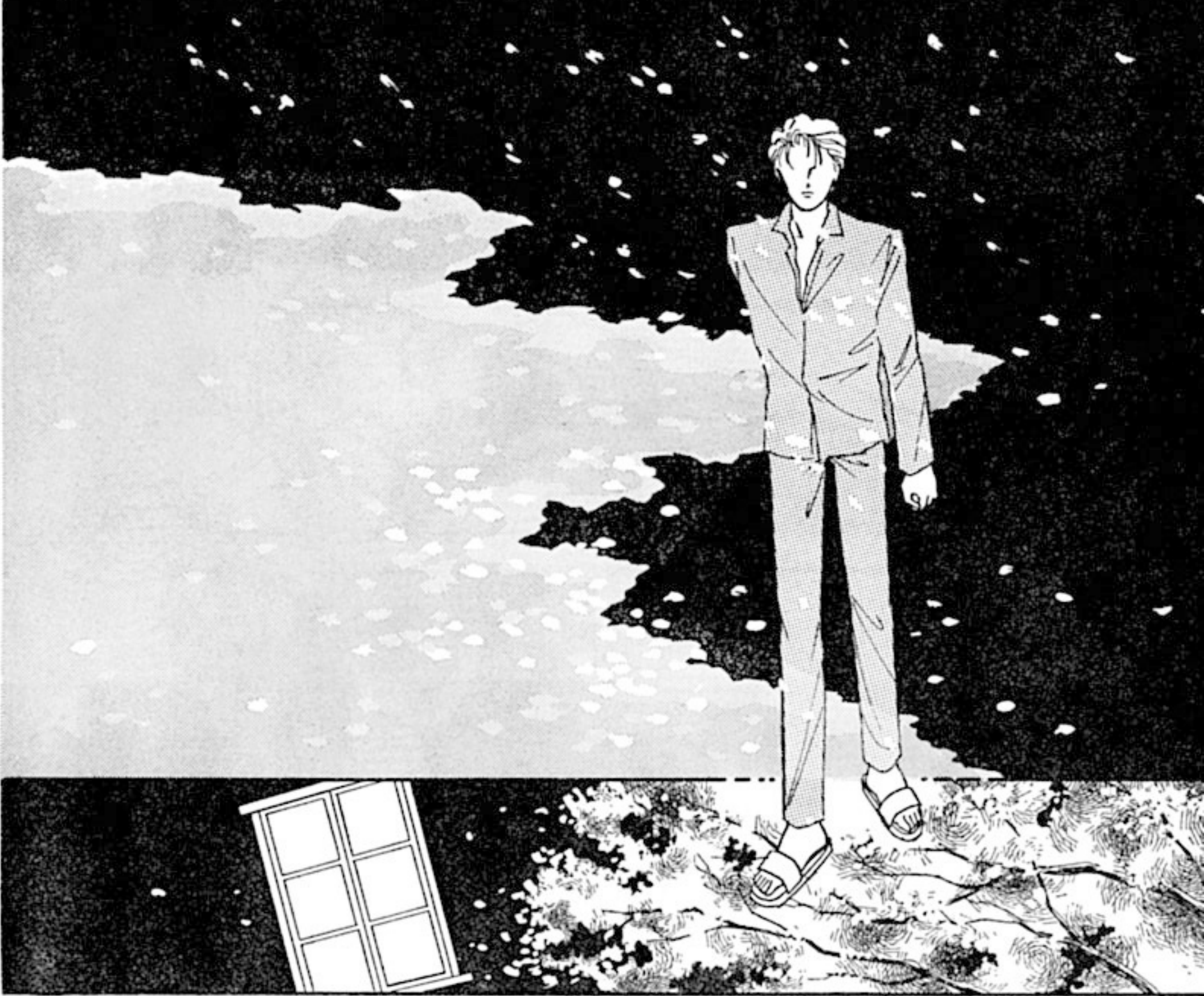
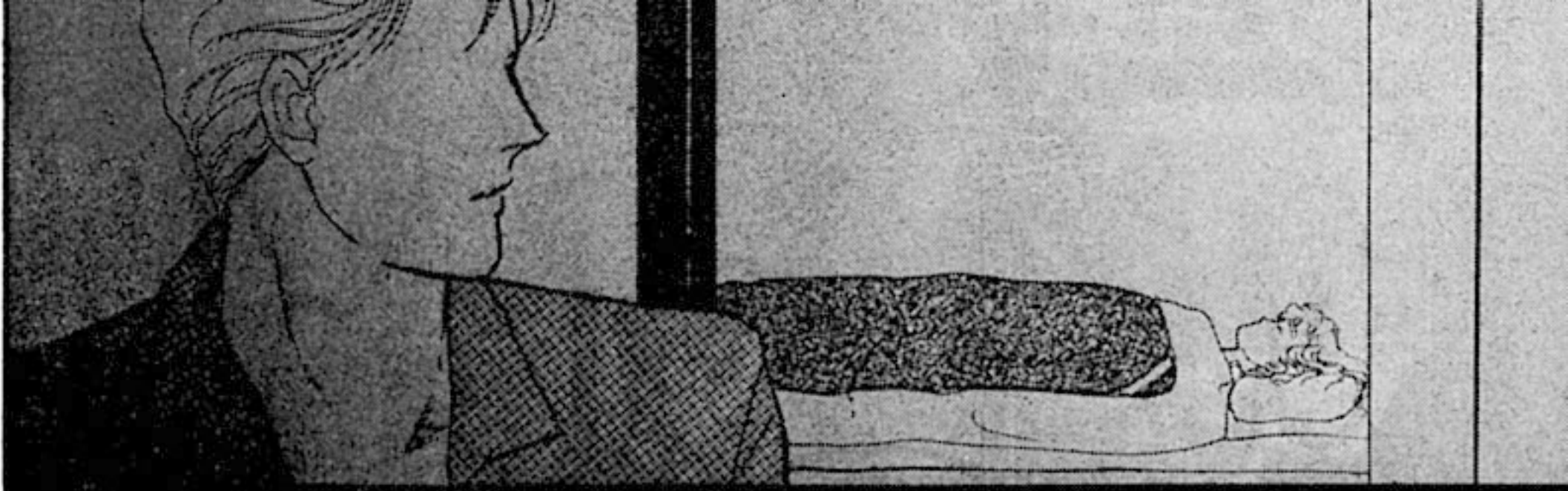



ええ
あなたは
私を愛してくれたから

家を捨てられない
私をわかってくれ

ここに住むことにも
同意してくれた







俺は毎夜
憑かれたように
志保子の部屋へと
通った



あなた？


わからない

かつて
織絵にそうであつたように

俺はこの少女を
狂おしいほどに
求めていた

それは
愛だろうか

それとも
人並みの生活も
人並みの恋愛も
望めぬ志保子への
同情だろうか





何をしてるの



寝てたんじゃ
ないの？

あ…
志保ちゃん…





子ども



なんで？

志保ちゃん







具合が
悪いのか

大丈夫よ

起こして



死体が
埋まって
いるからよ



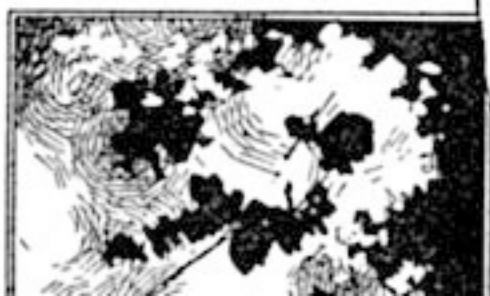
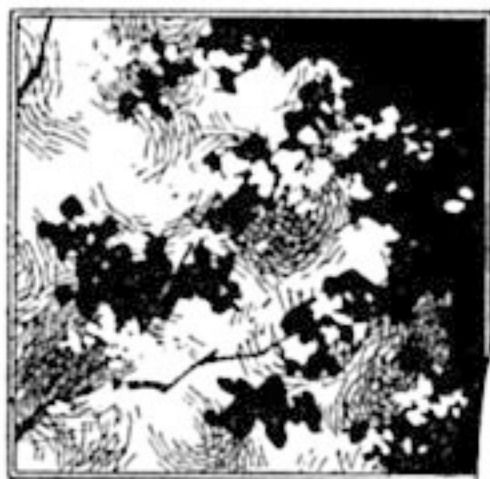
この家の桜は
本当に
赤が強いな

だれかが
燃えるようだ
と
言っていたけど



髪に
花びらが
ついてる

桜の下を
歩いてきたからね



桜の樹の下には
死体が埋まっているって
いうでしょう

死体の養分を
吸いとって
花が紅く染まるのよ



樹の下に埋められた死体

あれは
あたしの死体



ほら見えるでしょう



小さいころ
熱にうなされながら
この窓から
桜を見るのは
とてもこわかった



あれは
あたしの死体

あたしはもう
このまま
死んでしまうんだ
……って



とても
こわかった



こわくて
おかあさんに
しがみついて……

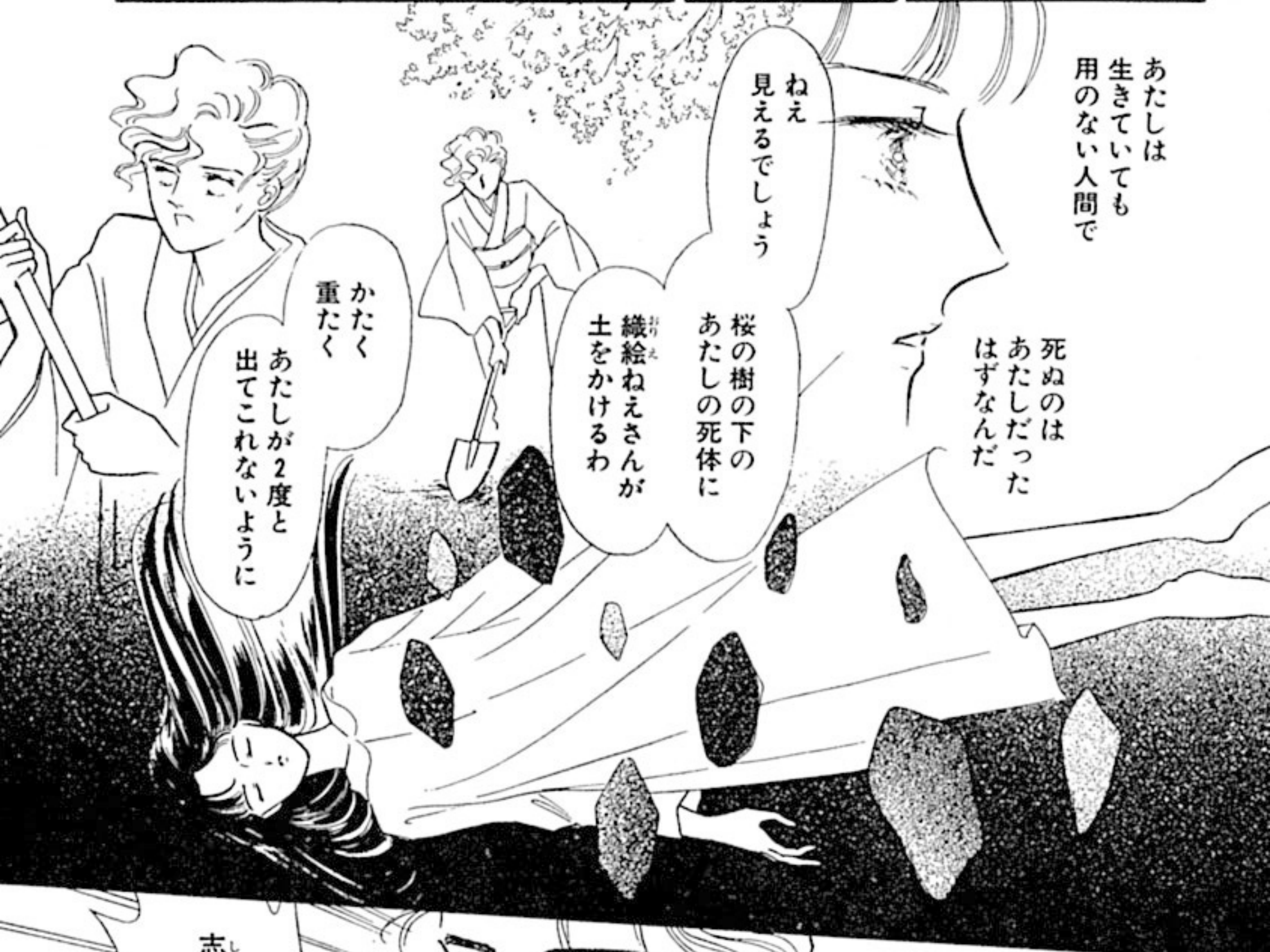


おかあさんが
死んだとき
おとうさんが
言ったわ

おかあさんは
おまえの看病で
疲れたんだって…



まさか
おかあさんが
先に死んじゃうなんて
思わなかった



あたしは
生きていても
用のない人間で

死ぬのは
あたしだった
はずなんだ

ねえ
見えるでしょう

桜の樹の下の
あたしの死体に

織^{オリ}絵ねえさんが
土をかけるわ

かたく
重たく

あたしが2度と
出てこれないように



志保子!!



あたし
今は
こわくなんて
ないのよ

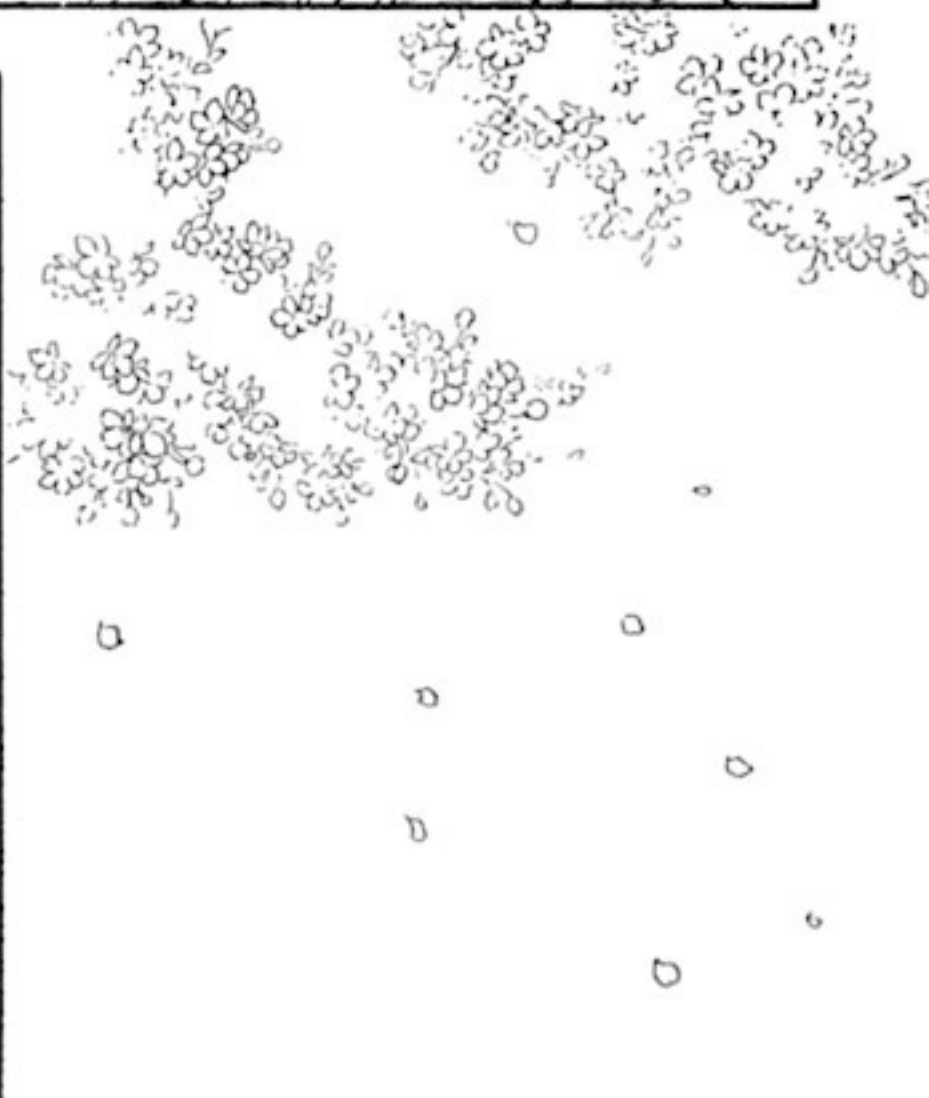
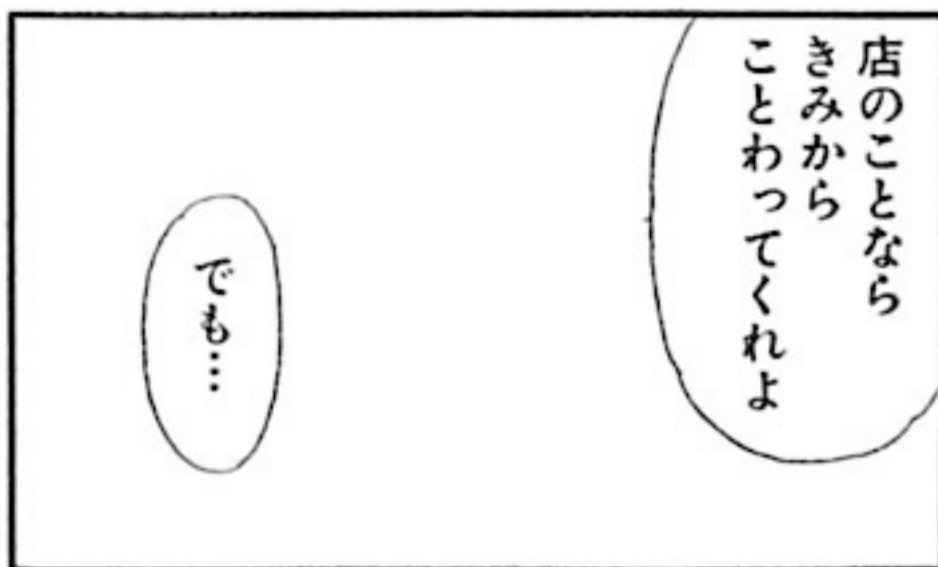
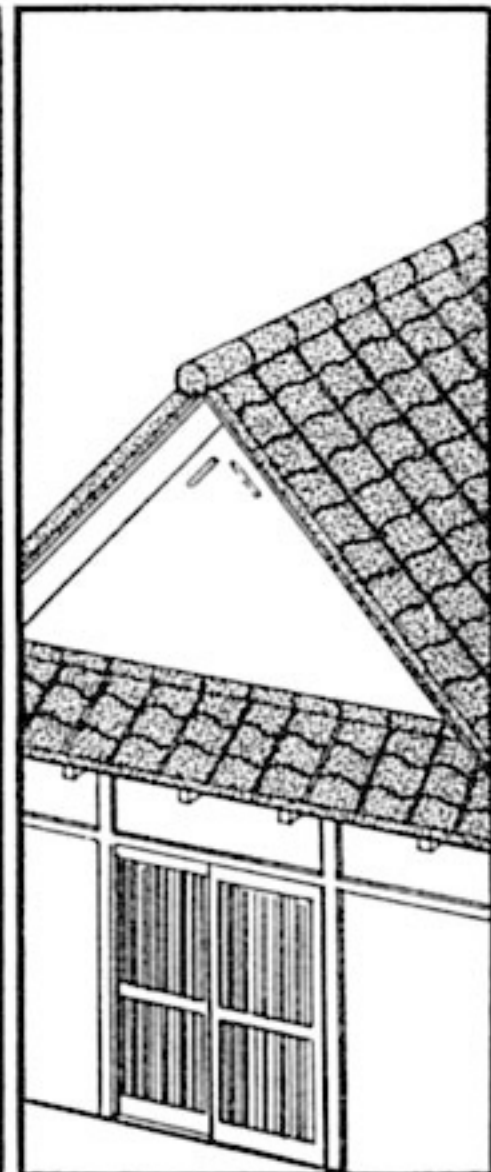
だって
しかたのない
ことなんだから



死んで
桜の養分に
なれるのならいいわ



桜が
美しく咲くならいいわ





わっ



僕は和室に
いますから
終わられたら
教えてください



大丈夫

叔父さまは
話が長いん
だから

だめだよ
お義父さんが
来るんだ



母屋に来るのが
見えたから
あたしのとこに
来てくれるのかと
思ったのに

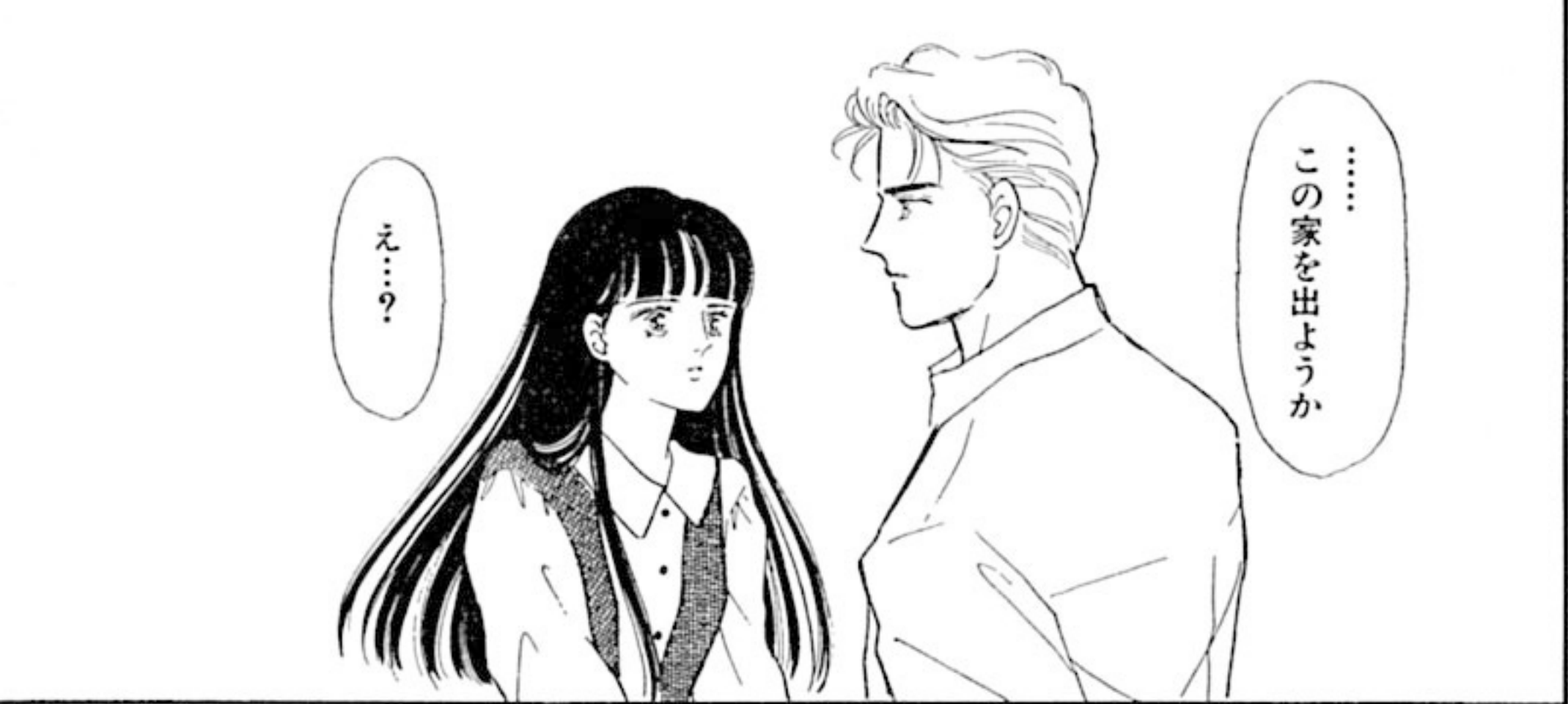


ちよっとって？



おとうさんに
何のご用？

ちよっとね



……
この家を出ようか

え……?



どこかに行って
一緒に
暮らそうか



そうだけど

桜は
どこにでもある

桜を見るのは
今年が最後ね

じゃあ……

……

